（別紙４(1)）

１　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0391100062		
法人名	コンフォートライフ　合同会社		
事業所名	グループホーム　やかた		
所在地	岩手県釜石市大町三丁目９番１６号		
自己評価作成日	平成24年9月27日	評価結果市町村受理日	平成25年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0391100062-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

市街地のため、商店街や市民文化会館がすぐ目の前という好条件なので、地域行事への参加や買物、そこに行き交う地域住民との交流など、住み慣れた地域で変わらぬ生活が送っていただけるよう「安心と尊厳のある」生活支援を目指して2011年4月の開所準備をしていました。
しかし、2011年3月11日東日本大震災により当事業所も周辺地域も壊滅的な被害を受けてしまいました。それでも釜石に帰って着たい、この地で暮らしたいという方々の希望もあり、逸早く修復し9月には開所することが出来ました。まだまだ精神的にも傷の癒えない入所者や利用者、職員もおりますが、「ほっと一息、ぬくもりのある“やかた”」を介護理念として、もとの生活に仮設などではありますが地域商店街も復興に向けて営業を再開しているところもあり少しずつ地域交流が図れるようになってきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、壊滅的な被災を受けた街の中心地域の中にある。建物は、1階が小規模多機能型で2階がグループホームとなっている。当事業所は平成23年4月に開所の予定であったが、震災により遅れたが、理念として掲げた「ほっと一息　ぬくもりのある　やかた」を目指し、いち早く復興に力を注ぎ、同年9月に開所し、利用者・家族に安心と、安らぎの支援をしている。地域住民の温かい支援とともに何事にも積極的に取り組んでいる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念については掲示しており、それをもとにスタッフ皆で話会い介護理念を作りそれを共有している。	経営理念と、介護理念を事務室、廊下に掲示されており、介護理念は職員全員で作り上げたもので、朝の申し送りや、職員間のミーティングで共有に努めている。又　毎月テーマを変えながら、講師を招いて勉強会を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買物や散髪、外食など商店街の方々との交流はあるが、地域住民の方との交流が少なかったため、今後は施設内に多く出入りして頂けるよう様々な交流イベントを実施して行きたい。	町内会に加入しているので、情報が得られている。仮設の商店が近くにあるので、毎日出かける利用者もおり、また移動販売がホームにも来て自由に買い物を楽しんでいる。地元防災訓練の打ち合わせに出席したり、福祉用具の使い方等の習得に行ったりしている。今後は文化祭を実施する予定なので、地域住民にチラシを配布したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後検討していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	諸事情によりなかなか開催できていないが、開催時には利用者も参加のもと報告話し合いが出来ている。今後はきちんと定期的に開催しサービス向上に活かして行きたい。	昨年は開催できず、今年の8月、10月に実施している。委員から、利用者が無断外出した際には、連絡して欲しいとの要望もあり、その対策のマニュアルを作りたい意向である。	今後は定期的な開催と課題によってはオブザーバーとして参加して頂くなど、メンバーから積極的な意見、要望が出されサービス向上に活かされるよう望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に市担当者や包括支援センター職員等と連絡を取り合い協力関係を築くよう努めている。	市の福祉事務所には、毎日文書を受け取りに行っていることもあり、情報交換が円滑に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で権利擁護・身体拘束・リスクマネジメント委員会を設置し身体拘束について施設内研修会も行っている。	小規模多機能型と合同の身体拘束委員会を設置しており、毎月、研修会と報告会を実施している。外出傾向の利用者もいないので、安心・安全で穏やかな生活を送っている。言葉による拘束については、事例等を出し合い、ミーティングで話し合いはしているが、初心にかえり、講師を招き、勉強会をしたい意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	今後各種研修会等にも参加し防止に努めて行きたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員で権利擁護・身体拘束・リスクマネジメント委員会を設置し権利擁護について施設内研修会を行う予定となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望が出た際には速やかに対応するよう心がけているが、外部者当へ表せる機械は設けていない。	職員は、利用者との普段の雑談が最大のコミュニケーションと捉え、課題を把握するよう努めている。家族が来訪した際には、利用者と面談後に外で要望等を聞くように心がけている。遠方の家族の宿泊も受け入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員全体ミーティングを行い意見や提案を聞き入れるようにしている。	自己（外部）評価の取り組みは、職員全員で話し合いをした。職員から食器の要望があり、焼魚の皿を購入するなど意見が反映できるよう取り組みされている。12月には、意見や提案を聞くための個人面談の予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力を評価し、向上心ややりがいにつながるように労働条件や職場環境の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外に問わず、研修や講演へは積極的に参加を進め職員のケア向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生などの受け入れは行っているが、特に他同業者との交流は行っていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の訪問や面談にて本人や関係機関などより聞き込みを行い、可能な限り不安を解消したうえで入所して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の訪問や面談にて家族より聞き込みを行い、共に支援して行けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前には当施設見学もして頂き、必要であれば他のサービスについても説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、調理など出来る限り入所者と共に行ってはいるが、まだまだ良い関係性が築けておらず日々検討している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	殆どの家族が遠方にて生活していて面会もままならない為、本人と家族の橋渡しとなれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人など家族以外の方との面会も自由にできる状態にし関係が途切れないよう支援している。	センター方式を取り入れており、細かに記載され、把握に努めている。家族が毎日のように面会に来る方もいる。利用者一人ひとりの状態を見ながら被災した場所に行ったりしながら、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同スペースでの座席や各居室配置にも配慮して良好な関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の希望に添えるよう、退所時にも相談支援を行い、相談支援の継続も伝えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し本人の希望や意向など日常会話から聞き込みを行い把握に努めている。	利用者の中には、体調を崩した妹を心配して会いに行ったりしている。近々、釜石祭りがあるので、練習の太鼓の音が聞こえると、床屋に行きたい等これまでの習慣等に見られるような要望があり、その支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し本人や家族より聞き込みを行い、前ケアマネージャーからも可能な限りの情報提供を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	依存傾向の強い方などであっても、残存機能の維持に努め見守り促しを行い低下を防いでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの希望や意向を踏まえ、各居担を含めた職員で話し合い介護計画に反映している。	利用者の担当を決め、担当者会議で課題を提出し、家族からの希望は最も重視し、作成している。来訪した際に、要望等を聞き、印鑑を頂き、変更があれば随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケア記録の記入を実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩や買物以外でも外食や美容院など本人の希望に添えるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣商店街への外出、外出が困難な方へは出張販売や出張美容室などで対応している。その他、食事や入浴なども時間にとらわれず本人の状態に応じて対応するよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態に応じて適切と思われる医療機関を家族と話し合い決めている。 受診介助も行い主治医との連絡も密に取っている。	かかりつけ医、協力医、個人医院と希望する医療機関との受診支援に努めている。殆どは職員が対応し、医師から特別な所見があった場合は、電話で報告をしている。歯科診療は往診をして頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護職と情報を共有し、心身共に変化の見られたときはすぐに報告、相談、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関と書類にて情報の共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限り本人や家族の希望に添えるよう主治医との連携を密にとり支援している。	重度化や終末期に向けて、契約時の説明や、方針等を明確にしたものはないが、ミーティングでは話し合っている。現在利用者と家族が希望されている方があり、主治医、家族と連携を取りながら支援している状況にある。	方針については、文書で明確化し、本人・家族・職員で、状況に応じた話し合いを繰り返していき、段階的な合意の必要性を図りながら今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル以外にも、看護師による内部研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い火災に備えるとともに、津波の非難場所には近隣の集会場とし地域の方々の協力も頂いている。	定期的な訓練は、小規模多機能型と合同で、町内会の方々にも参加して頂き、実施している。備蓄については、近くの集会所に物置があるので、非常食等を準備している。夜の訓練は実施していない。	夜の暗い時の景色や足場の違いに適切な判断と対応が出来るよう体得していくことが大切である。地域の方々の協力が、なお一層得られるよう働きかけに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの状態に合った声掛けが出来るように努めている。	利用者は人生の先輩である。一人ひとりの尊厳を守るための精神面への配慮に心がけている。管理者は声掛けの勉強会を実施したい意向である	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの場面でも本人の意思確認をした上で支援できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間の業務連絡を密に取り、一人ひとりの希望やペースに合わせていけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室にも来て頂いているが、本人の希望があれば他の美容師への送迎も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いのある方には代替え食を用意したり、夕食以外は職員も同じものを一緒に頂いている。 片付けなどは殆どお任せ状態でやって頂いている。	小規模多機能型と合同の給食委員会が設置されており利用者からの要望を聞きながら、献立を作成している。食事に関する一連の作業は利用者を当番制にし、お手伝いしている。職員は同じテーブルで利用者と一緒の食事をしながら関係づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎回記録し職員が把握している。お茶やコーヒーなども職員が嗜好を把握し提供できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせて声がけや介助を行っている。職員も歯科医師会の口腔ケアのボランティアさんにケアの指導も受け向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に合わせてチェック表を作成し時間や行動の変化で対応したり、本人の精神的な不安からリハビリパンツを使用している方には、声がけなどで布パンツとパットへ変更するなどひとつひとつ時間をかけて支援している。	排泄チェック表で声掛けのみの方、トイレまで誘導の方、一人ひとりの状態に合わせて支援に努めている。リハビリパンツからパットになるなど工夫しながら取り組んでいる。体調を崩された利用者には、ポータブルを使用する時もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排便の把握に努め、便秘がちの方には主治医や看護師と相談しながら運動や水分補給の声がけ促しを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっているが、追加や変更など希望にも対応出来るようにしている。	基本的には、週3回としているが、それ以外でも随時実施している。入浴の順番は利用者会議で決めた方がよいとの意見があり、納得した順番で小規模多機能型の1階の風呂を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣も踏まえながら、出来るだけ昼夜逆転にならないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルに綴りいつでも確認できる状態にし、看護師の指示のもと支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買物、夜間の晩酌など以前からの気分転換が変わらず行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へはいつでも希望に対応出来るよう支援している。レクリエーションなどで足を伸ばせる機会を増やせるよう努めている。 今後家族や地域住民の協力も得られるよう計画して行きたい。	毎日仮設店舗へ買い物に出かける利用者がいて、とても楽しみにしている。全員では釜石大観音参拝ツアー、釜石産直、春の新緑ツアーなど外出支援に努めている。今後の計画としては地域への行事参加、家族と一緒の旅行など地域の協力を得ながら、実施したい意向である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫にて管理はしているが、出来る方には買物の際財布をそのまま預けお会計もして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話も手紙も出来るよう支援し、中には携帯電話を持参している方もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの小正月や七夕などの飾りつけは行ったがもっと工夫して季節感の演出に心がけて行きたい。	普段、利用者の方々は、食堂兼居間にいて、自由に過ごされている。廊下の幅は広いスペースで、片側には収納庫があり、片側は収納と棚になっており、その上には、利用者が購入した花が置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールスペースのソファーの他、廊下にもベンチを設置し、気の合う方々がくつろげる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具類など出来る限り自宅で使用していたものを準備して頂き本人が居心地良く過ごせるように配慮している。	居室は基本的には、電動ベット（普段は電源を切っている）収納庫、エアコン、換気扇（室内の温度を変えない）がある。利用者の中には、位牌にご飯、果物を供えている方もいる。冷蔵庫を使用している方もおり、自由に持ち込みされている。ベットからずり落ちる方がいるので、センサーマットを設置した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の整理は本人と行い整理整頓を心がけ、排泄が頻回な方などはトイレのそばの部屋を使って頂くなどの配慮をしている。		